

### 3-1-8. 図書委員会

本年度は、2回図書委員会を開催し、主に、図書資料費の決算及び予算の審議、学生用推薦図書の選定、外国雑誌継続購読の調査を行った。また、委員長は、4回開催された全学の附属図書館運営委員会へ出席した。

(図書委員会委員長 中山修一)

## 3.2. 学生

### 3-2-1. 学生委員会

#### 1. 委員会開催及び議題等について

平成17年度における本委員会は計7回開催された。そこで検討された主な議題は、発達ホールの運用に関わる事項、学生のアメニティ整備に関わる事項、学生の環境意識向上に関わる事項、新入生アンケートの集計及び分析に関わる事項、学舎内全面喫煙禁止に関わる事項及び平成18年度入学者選抜試験に関わる事項等である。

#### 2. 委員会活動について

昨年度設置された発達ホールについては、意見箱に投函された学生からの要望を踏まえ、運用に関する諸方策を検討した。それまで発達ホールには新聞や他学部の学生便覧等が置かれていたが、これに加え、開架が可能な学術雑誌や研究紀要等を置くこととし、そのための開架棚を要望し購入した。また、教務係と相談の上、授業時間割を掲示することとした。なお、要望のあったテレビ及び複写機の設置については、自習学生への配慮、機器の管理上の問題等を勘案し見送ることとした。

学生のアメニティ整備については、昨年度からの申し送り事項を踏まえ、生協に対し夜食弁当の周知を要請した。

新入生ガイダンス時に実施したアンケートについて、集約・分析を行った。概略を記しておけば、次のようになる。

- (1) 本学部の情報の入手先については、インターネット、学部パンフレット、学校教員から情報を得たとの回答が多く、今後これらの部分に対する対応策が重要であること。
- (2) 本学部の選択理由として、「気に入った学科/履修コースがある」との回答が60%以上を占め、事前に学部の内容を知った上で入学していること。
- (3) 免許・資格については、教員免許の取得希望が多いこと。
- (4) 在学中に学びたいことに関しては、「環境問題」、「子どもの発達」及び「教育」等の回答が多かったが、具体的な内容は示されておらず、今後設問の工夫が必要であること。

学生の環境意識向上については、昨年度作成した納涼扇子を正門等で配布し、併せて節電キャンペーンに関わるポスターを学舎内に掲示した。

最後に入学者選抜についてであるが、本年度の大学入試センターにおいて英語(リスニング)が初めて導入されたことに伴い、12月14日に機器の取扱い等に関する説明会を行った。

(学生委員会委員長 武田義明：代理副委員長 岡田章宏)

### 3-2-2. 入学試験委員会

本委員会はルーティンワークともいえるべき、年毎に審議決定すべき事項があり、本年度も以下の事項について原案を審議、決定した。

平成 18 年度入学者選抜の実施教科・科目の配点，選抜要項の作成，選抜に関わる原則の決定，合格者数，追加合格者数，入試日程に関する各々の原案

平成 18 年度 3 年次編入学学生募集要項

平成 18 年度私費外国人留学生の選考方法

今年度は，以上の審議に加えて，新学科体制への移行に伴う，いくつかの懸案事項があった。

一つは，人間行動学科の平成 17 年度 AO 入試に関わっての審議である。同学科の身体行動の入試問題の開示については実技系の問題を含むため，問題だけに限定することとした。また，合格発表については，学部のホームページにも掲載することとした。

二つ目は，人間行動学科の平成 19 年度入学者選抜試験において，新たに「小論文 AO 入試」を導入する件を審議し，原案を作成した。定員 5 名とし，後期日程入試の定員を振り替えること，この措置に伴い同学科の後期日程入試を廃止することとした。

三つ目は，平成 19 年度第 3 年次編入学に係る募集履修コース，試験科目の設定について，新学科体制のもとでの見直しを行った。編入学試験については，以上の他に学校教育法の改訂と入学志願者からの要望を受けて出願資格の拡大を行った。

今年度の大きな課題は，平成 20 年度以降における入学者選抜方法の変更についてである。とりわけ後期日程入試の取扱いについて慎重審議した。今後の入学志願者状況と学部，学科の理念等を考慮し，後期日程入試の廃止を原案とした。

平成 17 年度入学者選抜試験より人間行動学科の AO 入試，また，平成 18 年度には人間環境学科においても AO 入試を実施し，さらに平成 19 年度においては人間行動学科の AO 入試を拡大するなど，近年，入試の種類が増加，複雑化しているため，入試のあり方全般を見直す必要性も出てきた。その一環として，社会人入試の試験科目について審議し，人間形成学科を除いて，他の 3 学科では小論文は課さない等の改訂を行った。

入試を小さな単位毎に分化し，丁寧な試験を行うことは理想であるが，入試業務に関わる人員と日程は限られているため，現実とすり合わせを行いながら，よりよい入試としていくことが今後の課題である。

(入学試験委員会委員長 朴木佳緒留)

### 3-2-3．社会人入試専門委員会

新学科体制に移行して初めてとなる平成 18 年度社会人特別選抜は，四学科で同時に実施された。ただし，選抜方法については学科により若干の違いがあり，人間形成学科の試験科目は，英語及び小論文，面接（口頭試問）であったのに対し，他の三学科は，英語と面接（口頭試問）であった。

出願期間は，平成 17 年 9 月 1 日から 9 月 7 日，試験の実施は平成 17 年 10 月 1 日と 2 日の 2 日間，合格発表は平成 17 年 10 月 21 日であった。募集人員は，14 名（人間形成学科 5 名，人間行動学科 2 名，人間表現学科 2 名，人間環境学科 5 名）で，志願者数は 23 名，受験者数は 23 名，合格者数は 9 名（人間形成学科 5 名，人間行動学科 0 名，人間表現学科 2 名，人間環境学科 2 名）であった。なお，辞退者が 1 名（人間環境学科）あったため，実際の入学者は 8 名であった。

(社会人入試専門委員会委員長 武田義明：代理学生委員会副委員長 岡田章宏)

### 3-2-4．編入学試験専門委員会

平成 18 年度の編入学試験は、3 つの学科における 12 の履修コースで行われた。その内訳は、人間発達科学科では、発達基礎論、障害児教育学、児童発達論、初等教育学、教育科学論、成人学習論、健康発達論の 7 つの履修コース、人間環境科学科では、自然環境論、数理・情報環境論の 2 つの履修コース、人間行動・表現学科では、音楽表現論、造形表現論、身体行動論の 3 つの履修コースであった。

出願期間は、平成 17 年 9 月 1 日から 9 月 7 日、試験の実施は平成 17 年 10 月 1 日と 2 日の 2 日間、合格発表は平成 17 年 10 月 21 日であった。募集人員は 10 名で、志願者合計は 111 名、受験者数は 101 名、合格者は 17 名であった。なお、辞退者が 1 名いたため、編入学試験による実際の入学者数は 16 名であった。

(編入学試験専門委員会委員長 武田義明：代理学生委員会委員 稲葉太一)

### 3-2-5．AO 入試実施委員会

今年度より人間環境学科において AO 入試を実施した(平成 18 年度入学者選抜試験)。募集人員 8 名のところ、20 名が応募し、4 名が合格した。第一次選考の書類審査を経て、第二次選考としてポスターセッションによる選考を実施したところ、熱意、創意にあふれたプレゼンテーションが展開された。選抜のためのプレゼンテーションが終了した後は、受験生が自然発生的に各々のポスターの前に集まり、受験生同士で語り合うなどの和やかで良好な交流も生まれた。最終合格者に対しては、入学までの学習案内を送付し、フォローアップも実施した。

人間行動学科の AO 入試は今年度で 2 回目であったため、スムーズに選考できたが、詳細な部分については検討すべき課題も見付き、次年度で改善することとした。今年度は 69 名が受験し、12 名が合格した。また、平成 19 年度入学者選抜試験より、人間行動学科の AO 入試の対象者を拡大し、書類審査、小論文、面接による選抜試験を行い、8 名を募集することを決定した。

AO 入試は実施しつつ点検し、よりよいものに改訂する作業が欠かせないが、今年度の結果を精査し、今後に備えたい。

今年度も春期より高校訪問を行い、AO 入試の説明と高校事情の聞き取りを実施した。

人間環境学科の自然環境論講座及び人間行動学科の教員と AO 入試実施委員会が手分けして、近畿地方の 70 校を訪問した。高校からは歓迎されるとともに、AO 入試への注文や少数ではあるが苦言も述べられた。

その他、AO 入試の実施に関わる諸作業を実施した。関係学科の教員、学生係の奮闘の結果、問題なく実施出来た。

(AO 入試実施委員会委員長 朴木佳緒留)

## 3.3. 研究

### 3-3-1．研究推進委員会

#### 1．プロジェクト研究の推進

平成 16 年度発達科学研究推進特別経費に基づくプロジェクト研究の報告を取りまとめ 教授会に報告した。

平成 17 年度のプロジェクト研究を募集したところ、応募が 1 件しかなく、再募集となった。再募集の結果、6 件(重点研究 1 件、一般研究 5 件)の応募があり、計 7 件の応募となった。応募